

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	榛名町立第六小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	20
児童数	54	54	45	68	51	59	4	335	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「確かな学力を身につけた児童の育成」 - 個に応じた指導の工夫を通して -</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年生・算数(TT指導) 入学して間もないので、学習習慣の確立のためにも複数の指導者による指導が効果的と考えたため</li> <li>・ 2年生・算数(TT指導) 特別に支援を要する児童もあり、複数の指導者による指導により全児童の理解の定着を図ろうと考えたため</li> <li>・ 3～6年生・算数(少人数指導) 系統性の強い教科において、理解や習熟の程度に応じた指導を進めることで、基礎基本の確実な定着を図ろうと考えたため</li> <li>・ 4年生・国語(TT指導) 児童数が比較的多いことに加え特別に支援を要する児童もいるため、複数の指導者による指導により読解の基礎力を身につけさせようと考えたため</li> <li>・ 5・6年生・音楽、社会、家庭、体育(交換等による教科担任制) 教職員の専門性および特性を生かした指導を行うことで、補充的・発展的な指導の充実を図ろうと考えたため</li> </ul>
--

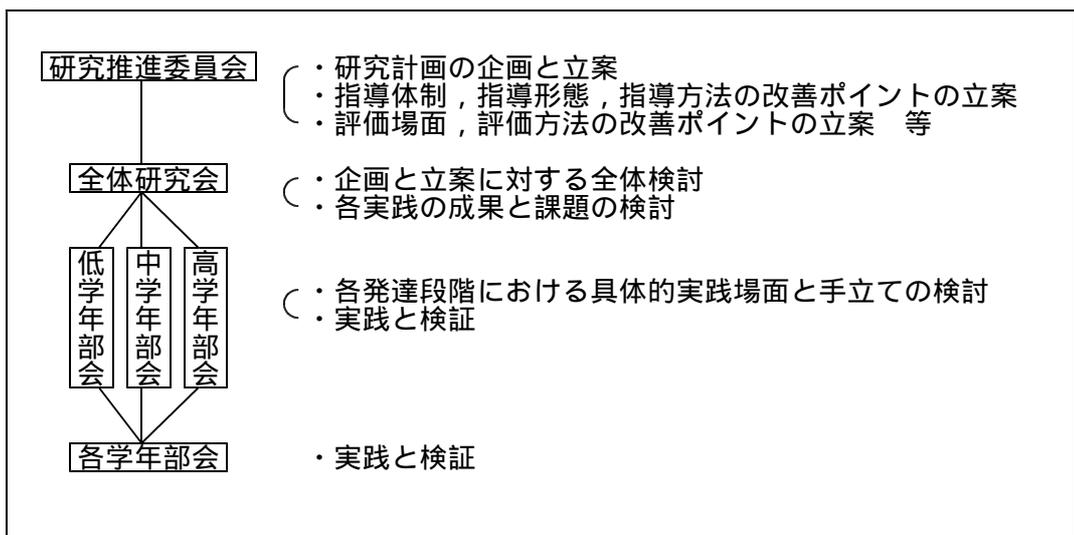
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 理解や習熟の程度に応じた指導形態と指導方法の工夫改善 研究の見通し(仮説) 理解や習熟の程度を基本に個に応じた指導を進めれば、一人一人の児童は学びへの意欲を高めながら自分の力に応じた学習に取り組むことが可能になって、基礎的基本的な内容の確実な習得と共に、確かな学力を身につけていくことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・ 少人数 TT, TT 少人数等、小単元レベルでの効果的な指導形態を探る。 弾力的な指導形態の運用が可能となるよう、指導体制を整えた上で、教師の協働により「単元構想図」を作成し、実践を通して有効な指導形態を明らかにしていく。 ・ 少人数に分けた後の各学習集団内の個人差に応じるための、効果的な指導方法を探る。 児童の課題意識を継続させるための問題づくり、学習の個別化と集団での練り上げ方の工夫、教材の工夫等、実践を通して有効な指導方法を明らかにしていく。</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 補充的な指導と発展的な指導の効果を高めることを目的とした教材開発と指導方法の工夫・改善</p> <p>研究の見通し 理解や習熟の程度を基本に個に応じた指導を進める中で、開発教材による補充的な指導と発展的な指導を焦点に改善を図れば、一人一人の児童はこれまで以上に学びへの意欲を高めながら、自分の力に応じた学習に取り組むことが可能になって、基礎的基本的な内容の確実な習得と共に、確かな学力を身につけていくことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 ・単元レベルでの教材開発による補充的な指導と発展的な指導の改善を図る。「単元構想」に開発教材を位置づけ、その活用方法と効果を実践を通して明らかにする。 ・より適切な支援や助言につなげるためのきめ細かな評価の方法を探る。各評価規準に対する各教師の実際の評価を交流し合うことを通して、評価規準の精度と評価力の向上を図る。これにより、支援・助言に的確に生きる評価となるようにする。</p>
----------------	--

\* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1. 研究の成果

- ・児童自身が「今の自分を伸ばすためのTT，少人数学習」と意識して学習に取り組む，意欲を高めている。
- ・特に，補充的な指導を必要とする児童の学力の伸びや意欲の高まりが大きく見られる。
- ・理解や習熟の程度に応じる指導を進めるための，指導体制や環境が整ってきている。
- ・教師間の協働での教材研究や打ち合わせが日常化し，授業の質の向上が図られてきている。

## 2. 今後の課題

- ・理解や習熟の程度に応じた少人数指導を進める際の、評価の妥当性と客観性を高めるため、評価規準の一層の具体化を進めるとともに、教師の評価力の向上を図っていく必要がある。
- ・確かな学力を構成する各要素を観点にして、これまでの取組による成果を具体的かつ客観的に検証・評価していく必要がある。
- ・補足的な指導と発展的な指導をより効果的にするための教材開発を、一層進める必要がある。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・TK式観点別到達度学力検査の実施  
国語科と算数科について、全学年において2月上旬に実施  
結果分析をもとに、取組の成果の確認と指導の改善を目的とする

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・公開授業研究会；平成16年1月30日に本校で実施 対象は群馬県西部教育事務所管内小学校と群馬県内フロンティアスクール  
理解や習熟の程度に応じた少人数指導等における指導形態と指導方法の質的向上を図ることを目的とする  
参加者は130名程度
- ・研究経過と成果の普及を目的としたHP作成  
<http://www.town.haruna.gunma.jp/school/rokusho/>
- ・研究経過と成果の普及を目的とした広報誌『フロンティアくるま』の作成と配布
- ・休業中における視察来校の受け入れ

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	レ15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 レ13～18学級 25学級以上	7～12学級 19～24学級	
【指導体制】	レ少人数指導 レ一部教科担任制	レT・Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	レ算数 図画工作 理科 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		レ有 無	